

躍進企業 市 かながわ

日本ベアシック(川崎市、勝浦雄一社長)は持ち運べる浄水器を使って、浄水器搭載自転車などユニークな製品を開発・販売している。今年八月に完成した浄水器付き自動販売機は、コカ・

日本ベアシック(浄水器付き商品開発・販売)



停止した状態でペダルをこくと浄水され、飲料水になる

飲料水確保、震災が教訓 新興国での販売も視野

コーラグループと組んで首都圏全域に設置する予定。きれいな水が手に入りにくい新興国などの市場も視野に入れている。

主力商品は浄水器を搭載した自転車「モバイルウォーター」だ。普通の

自動車の荷台に高さ十五センチほどの浄水器を載せている。水源に行き、浄水器につないで水をいれる。災害時などに役に立つと勝浦社長。モバイルウォーターは、ペダルをこくだけで、水が浄水器を経て飲料水になる。二〇〇五年の発売以来、百台ほど売

破格(同社長)の三億二千万を上司に掛け合い獲得。クリンスイは三菱レイオンを代表する製品にも使えると直感。すぐに試作品を作った。

ただ、事業化の前に勝浦社長は後職定年で三菱レイオンを退社し、同社ものは結局発売を見送った。

取引先は再び勝浦社長のものに「どうにか世の中に出したい。応援してくれないか」と話を持ち込んだ。

当時、接客制会社で役員をしていた勝浦社長は、「サラリーマン人生は、三十三年のうち、二十年間クリンスイにかかわっていた。水が私のおかげで立つところ」と思い、一念発起。日本ベアシックを発足させた。

電力がいらす、子どもでも変えられるモバイルウォーターは、災害時の飲料水確保対策として川崎市などが購入。〇七年には川崎市が「川崎ものづくりブランド」に認定した。同市は現在、子ども浄水器が寄与し売上高五千五百万円、経常利益八百万円を見込む。

勝浦社長は大学卒業後三菱レイオンに入社。同社が一九八三年に発売した家庭用浄水器「クリンスイ」の広報を担当したが、浄水器との出会いがあった。宣伝費として三菱レイオンとしては器を横断してみた」とい

者から、「自転車に浄水器を横断してみた」とい

当時、接客制会社で役員をしていた勝浦社長は、「サラリーマン人生は、三十三年のうち、二十年間クリンスイにかかわっていた。水が私のおかげで立つところ」と思い、一念発起。日本ベアシックを発足させた。

電力がいらす、子どもでも変えられるモバイルウォーターは、災害時の飲料水確保対策として川崎市などが購入。〇七年には川崎市が「川崎ものづくりブランド」に認定した。同市は現在、子ども浄水器が寄与し売上高五千五百万円、経常利益八百万円を見込む。

当時、接客制会社で役員をしていた勝浦社長は、「サラリーマン人生は、三十三年のうち、二十年間クリンスイにかかわっていた。水が私のおかげで立つところ」と思い、一念発起。日本ベアシックを発足させた。



勝浦雄一社長

《会社概要》
川崎市中原区新丸子町767-2氏橋ビル2階
2005年5月
携帯用浄水器の開発・販売
1000万円
(08年5月期、単体)
1100万円(同)
1人

神奈川

横浜 045-2201-2551
川崎 044-2221-7793